

# 尼崎 21 世紀の森構想

平成14年 3月

兵 庫 県

# 目 次

	頁
第1章 尼崎21世紀の森構想の趣旨	
1.1 尼崎21世紀の森構想の趣旨	1-1
1.2 尼崎21世紀の森構想の対象区域	1-2
1.3 尼崎21世紀の森構想のタイムスケール	1-3
1.4 尼崎21世紀の森構想の構成	1-4
第2章 大阪湾ベイエリアと尼崎臨海地域の現状と課題	
2.1 大阪湾ベイエリアの変遷と現状	2-1
2.2 尼崎臨海地域のまちの変遷と現状	2-3
2.3 瀬戸内海 大阪湾の環境の変遷と現状	2-9
2.4 尼崎臨海地域の環境の変遷と現状	2-11
2.5 課題の整理	2-20
第3章 尼崎21世紀の森構想の方向性と将来像	
3.1 尼崎臨海地域における新たなまちづくりの要請と方向性	3-1
3.2 尼崎臨海地域の再生のための視点とねらい	3-5
3.3 尼崎臨海地域のまちづくりのテーマ	3-6
3.4 尼崎臨海地域の目指すべき将来像	3-8
第4章 まちづくりの展開方向	4-1
4.1 環境の回復 創造、美しい風景の創造	4-2
4.2 活力ある都市の再生	4-9
4.3 既存産業の育成 高度化と新産業の創造	4-15
4.4 豊かな人間性を育み、コライスタイルを創造するまちづくり	4-16
4.5 全ての主体の参画と協働による交流型のまちづくり	4-17
第5章 段階的整備	5-1
5.1 先導整備地区の役割	5-2
5.2 拠点地区の位置づけ	5-2
5.3 段階的整備方策	5-7
第6章 事業化推進方策	
6.1 事業推進上の課題	6-1
6.2 参画と協働による森構想推進方策	6-2
6.3 先導整備地区から周辺への展開方策	6-5
6.4 事業手法	6-11
第7章 まとめ	
7.1 森構想の趣旨	7-1
7.2 今後の課題と取り組み	7-3

【添付資料】 尼崎21世紀の森構想策定懇話会

## 第1章 尼崎21世紀の森構想の趣旨

### 1.1 尼崎21世紀の森構想の趣旨

明治の初め、ドイツの世界的な地理学者リヒト・ホーフエンが「世界で最も魅力的な景観」と絶賛した瀬戸内海は、その後の日本経済が発展するなかで、臨海地域は埋め立てられ自然海岸が減少するとともに、人口や産業の集中に伴う生活排水や工場排水の増加などにより、かつての美しい瀬戸内海も、昭和40年代には瀕死の海とさえ呼ばれるほど危機的な状態に陥った。

こうした中、昭和48年には「瀬戸内海環境保全臨時措置法」が制定され、排水規制の強化や、埋立などの抑制が図られ危機的な状況は回避されたものの、かつての瀬戸内海の魅力が回復されるまでに至っていない。

一方、我が国の産業は重化学工業から先端技術産業やソフト産業に構造的に変化するなかで、重厚長大産業が立地してきた瀬戸内海地域を取り巻く状況も大きく変化し、遊休地の発生など地域の活力が低下してきており、その再生が大きな課題となっている。

「環境の世紀」といわれる21世紀を迎え、今後の瀬戸内海の環境創造や地域温暖化等の地球環境問題を考えるとき、失われた自然環境の回復・創造と沿岸地域の健全な発展を実現していかなければならない。

“自然と人の営みの豊かな共生”の理念のもと、昨年、「人と自然のコミュニケーション」をテーマに開催された淡路花博は、大規模な土取り跡地に緑を甦らせた「自然環境の回復・創造」というコンセプトが多くの人々の評価を得たところである。

特に、瀬戸内海における尼崎臨海地域は、阪神工業地帯の一翼を担い、素材型産業など重化学工業を中心として、我が国の産業経済の発展をリードしてきたが、産業構造の変化等により、工場等の遊休地が発生するなど、地域の活力が低下してきていることから、地域活力再生への取り組みが最も必要とされる地域となっている。

また、この地域は、自然環境の喪失や公害の発生などこれまで環境に対して多くの負荷を与えてきており、市民にとって緑と潤いの少ない魅力の乏しい地域であり、地域環境の再生が緊急かつ重要な課題となっている。

尼崎臨海地域を魅力と活力あるまちに再生するため、陸域での環境負荷を少なくするとともに、ゆとりと潤いをもたらす水と緑豊かな自然環境の創出による環境共生型のまちづくりをめざす「尼崎21世紀の森構想」の策定に取り組み、「環境の世紀」を切り開く先導的なまちづくりのモデルを尼崎から世界に発信していく。

## 1.2 尼崎21世紀の森構想の対象区域

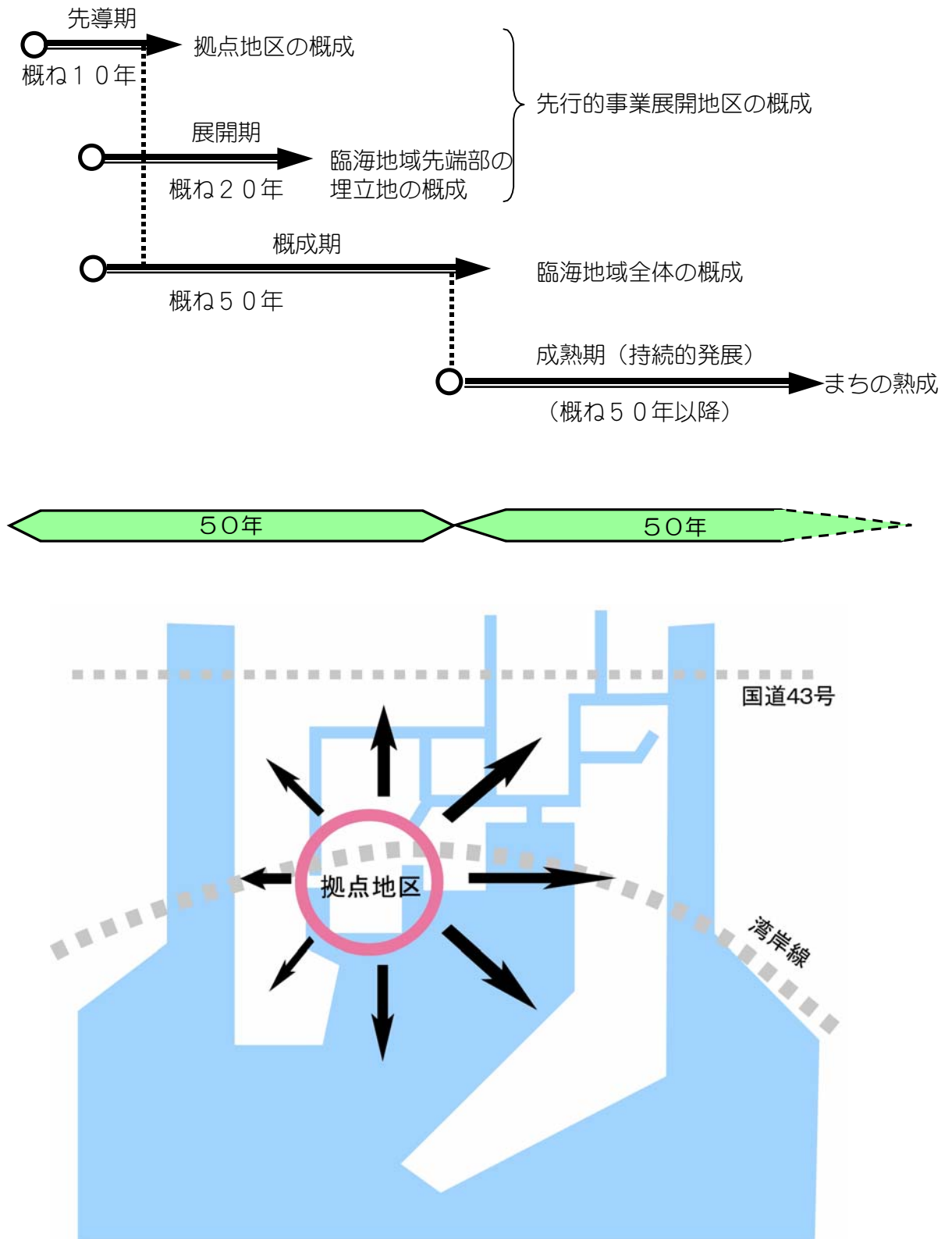
尼崎21世紀の森構想の趣旨から、国道43号以南の約1,000haを対象区域とする。





### 1.3 尼崎21世紀の森構想のタイムスケール

尼崎21世紀の森づくりは、21世紀を時間軸とした長期的な取り組みで行なう一大プロジェクトであることから先行的・重点的に森づくりを実現できるエリアを先導的な拠点として、全域に波及させていく段階的な手法で着実に進めていく。



# 1.4 尼崎21世紀の森構想の構成

